

投光器 学習版

国労東海貨物協議会
2013年11月10日 No.45
発行責任者 鈴木 和巳

中間決算では2億円の黒字！昨年比5億改善！

貨物会社の思惑は？

昨日、中間決算が発表されましたが、輸送量は昨年を上回っているものの運輸収入は昨を下回っている状況です。鉄道事業収入をみれば昨年比15億円の改善が図られ、上半期は減収増益となっています。しかしながら、この数字の中には私たちの生活に直結する人件費の削減も大きなウエイトを占めており、社員の誰もが驚愕した夏季手当の削減が見事に数字に表れました。

国労の年末手当交渉では過去の交渉経過（手当の決定には昨年の支給実績と経営実績を勘案）を否定はしないものの現下の状況を理由に「夏と同様に厳しいものとならざるを得ない」と回答しています。まさに会社の言っていることは矛盾だらけであり、鉄道事業部門の黒字化に向けて、過去の交渉経緯を否定しながら一直線に進んでいます。



では何故こんな対応が取れるのでしょうか？ 「賃金削減計画」を思い出せ！

会社は経営自立計画にある鉄道事業部門の黒字化実現が、機構からの890億円融資の条件であるとして最大労組の貨物労組を巻き込み、反対の声を抑え込む手法を続けており、貨物労組の対応こそが会社の横暴を許している状況です。皆さんに思い出してもらいたいことは、今年になり突如湧き出した「賃金削減計画」です。会社が施策を打ち出す場合、最大労組の了解なしには成立しません。「賃金削減計画」は会社と貨物労組のトップが合意し、貨物労組が社員の声を抑えることを前提に進められましたが、

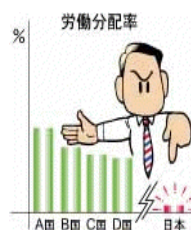
国労の掴んだ情報により全国的に社員から反対の声が大きくなり、貨物労組自身も反対せざるを得ない状況となり今年の計画は無くなりました。

組合員自身が自らの組合が何をしているのか、労働者の視点に立って活動しているかを考え、一番筋の通った組合はどこか等を考えることが重要です！！組合員でいることだけで自らの労働条件の切り下げに一役買っていることとなります。



残り少ない期間ですが社員の声を貨物会社に届けよう！

前段で述べましたが、一般的に期末手当は生活給と業績給が共に支払われています。そのことから考えれば会社自らが認めてきた1.5ヶ月の生活給は基より、昨年の実績を基礎に今年が昨年を上回っていれば、それなりの業績給が支払われて当然と言えるでしょう。貨物会社は経営計画で年間臨給は2.5ヶ月と計画し、貨物労の噂では「1.4ヶ月を確保した」「交渉は1.4ヶ月から始まる」などと聞きますが果たしてどうなるのでしょうか？



貨物社員の生活実態や要求を本社にぶつけよう！

この投光器学習版は国労東海本部のホームページにも掲載されています。

国労東海本部のURLは <http://www.kokurotokai.com> です！